

(様式3)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 4	学校名	宇都宮市立 国本中 学校
-----	-----------------	------	-----	-----	--------------

令和2年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- ・ 本人からの訴えで「3件」、本人の保護者からの訴えで「3件」、学級担任の気づきで「1件」、計「7件」のいじめがあった。
- ・ 不登校生徒は、新2年「10名」、新3年は「12名」と昨年度から大幅に増えてしまった。人間関係をつくれないなどの課題をもつ生徒や情緒的な課題をもつ生徒がほとんどである。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 「人の悪口を言ったり無視したりすることはいけないと思う」という質問の「とてもあてはまる」に回答した生徒の割合（新2年：72.5%，新3年：72.1%）が低い。いじめられる方にも原因があるという考えがいじめ認知件数の多さにつながっていると考えられる。どんな理由があろうが「いじめは絶対に許さない」ことを認識させるためのいじめゼロ集会や、いじめを題材にした道徳の授業実践に今まで以上に力を入れる必要がある。
- ・ 「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、新2年生 93.3%で宇都宮市の平均を1ポイント上回っていた。新3年生の肯定割合は86.8%で、宇都宮市の平均を2.5%下回っていた。
- ・ 「自分の良さを人のために生かしたいと思う」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、新2年生 89.2%で宇都宮市の平均を4.8ポイント上回っていた。新3年生の肯定割合は81.4%で、宇都宮市の平均を4.2%下回っていた。

(3) 学校生活の状況から

- ・ 元気よくあいさつのできる生徒が多く、更に少しずつ増えている。
- ・ 純朴でまじめな生徒が多いが、主体性については、伸びる余地が多い。
- ・ 地域学校園全体で基本的生活習慣を身に付けさせることを目標に、共通指導項目を推進していく。
- ・ 規範意識は概ね高い生徒が多く、問題行動も少ないが、交通社会の一員としての配慮に欠けるなどの、マナー不足の言動が見受けられる。地域に貢献できる学校を目指し、マナーの育成に努める。

2 今年度の重点目標

◎「生徒一人ひとりの主体性を高める指導の充実」

- 自分のよさに気づき、自信を持たせる指導の強化
- 活動の意欲を高め、粘り強く取り組ませる指導の強化
- 自分の力でやり遂げる体験や場の強化
- 生徒のよさを認め、ほめて伸ばす指導の強化
- 互いに認め合う集団づくりの強化

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★，「令和2年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（１）心の教育の徹底

- ★ 思いやり・助け合い精神の育成 SGEやSSTを取り入れた指導の工夫
（SGE：構成的グループエンカウンター SST：ソーシャルスキルトレーニング）

（２）基本的な生活行動様式の徹底

- 自らすすんで気持ちのよいあいさつのできる生徒の育成
- 時間を守り，けじめある行動のとれる節操ある生徒の育成
- ★ 正しい判断のもと，自分の良さを発揮できる生徒の育成

（３）共通理解と同一歩調による指導の強化

- 生徒行動状況の全職員への周知
- 生徒指導委員会の機能的運営と指導体制づくり
- 生徒心得の実践と徹底

（４）日常の観察や教育相談を通しての生徒理解の深化

- 相談活動の実施と強化
- Q－U検査を活用した学びに向かう集団づくりの推進

（５）いじめの解消と予防的指導

- 計画的で継続的な観察，調査等による交友関係の把握と生徒理解の充実
- 孤立しがちな生徒への指導援助
- いじめの早期発見と迅速な対応
- 解消後の継続的観察と事後指導の充実

（６）清掃活動の徹底

- ・ 校内美化意識の高揚と清掃の意義の深化
- ・ 清掃分担明確化と協力的態度の育成
- ・ 清掃に意欲的に取り組む態度の育成
- ・ 校内美化活動の推進

（７）SC及び教育関係機関との連携を密にした教育相談体制の強化

- 生徒指導諸問題の情報交換と連携強化
- ホームページでの生徒のよさや情報の発信（通年）
- 情報の発信，地域人材の活用（通年）
- 地区巡回指導活動（通年）
- 情報交換や授業参観の場の設定（前期一回・後期一回）
- 児童生徒指導強化連絡会における共通のテーマの実践（通年）
- 学校園掲示板を活用した情報交換（通年）
- 情報の発信，地域人材の活用（通年）

（８）教師の自己啓発と指導体制の確立

教師が人間として，また，社会人として常に生徒の模範であることを自覚し，自己啓発をしながら協力体制を確立する。

- 生徒を納得させる指導，信頼される言動の実践